



図2. ホソクシヒゲアリヅカムシ確認環境 (君津市).

詳しい地名, データをとまわらない古い記録が存在するだけで (久保田, 1949), 神奈川県, 千葉県, 埼玉県, 茨城県, 群馬県, 栃木県からも記録が見いだせない。

筆者は, 千葉県において本種を確認しているので報告する。

1♂, 千葉県君津市草川原, 7. IV. 2019, 筆者採集, 保管。

千葉県初記録. 山間の小規模なススキ草地においてススキの根際のリターから目視によって採集された。ススキ草地に接して雨が降ると細流となって流れる山道があり, ススキ草地の一画には小規模の湿地があった。そのため, ススキの株元の地表面にもコケが生えているなど, 乾いたススキ草地にはみられない特徴があった。

ただし, 本種はススキ草地のリター層に特有のものではなく, 野村 (2018) によれば, やや乾燥気味の土壌中にみられることが多く, 林道沿いの崖に溜まったリター層のシフティングでも得られるという (野村, 私信)。また, 筆者の経験でも, 伊豆諸島の御蔵島では照葉樹林内の比較的暗い尾根部分のシフティングでも複数個体を確認したことがある (Nomura *et al.*, 2013)。

末筆ながら, 採集に同行してくださった菅谷和希氏 ((株) 環境指標生物), 標本を同定し, 本種に関する情報をくださった野村周平博士 (国立科学博物館) に深謝する。

#### 引用文献

- 久保田政雄, 1949. 日本産蟻塚蝨科目録. 驪山會々誌, 3: 1-10.  
野村周平, 2001. 京都府下から記録されたアリヅカムシについて. わじればね, (95): 1-8.  
野村周平, 2018. 東北地方の宮城県ならびに近隣諸県のアリヅ

カムシ相 (ハネカクシ科, アリヅカムシ亜科) に関する資料. さやばねニューシリーズ, (29): 35-42.

Nomura, S., Kamezawa, H., & S. Arai, 2013. A review of Pselaphine beetles (Coleoptera, Staphylinidae) from the Izu-shotô Isls., Tokyo, Japan. Elytra, Tokyo, new series, 3 (1): 31-43.

Nomura, S. & H. Kamezawa, 2017. Further study on Pselaphine fauna (Coleoptera, Staphylinidae) from Izu-shotô Isls., Tokyo, Japan. Elytra, Tokyo, new series, 7 (1): 67-83.

柴田泰利・丸山宗利・保科英人・岸本年郎・直海俊一郎・野村周平・Volker Puthz・島田孝・渡辺泰明・山本周平, 2013. 日本産ハネカクシ科総目録 (昆虫綱: 甲虫目). 九州大学総合研究博物館研究報告, (11): 69-218.

(亀澤 洋 350-0825 川越市月吉町 32-17)

#### 【短報】伊豆大島で初記録された水生甲虫 5 種

伊豆大島は, 東京都大島町にある約 90 km<sup>2</sup> の離島である。火山性地形が卓越する島であるため, 溶岩や火山灰をはじめとした火山噴出物が表層を覆っており, その透水性の高さから雨水を地中に留めておけず, 恒常河川が形成されにくい性質を持つ (新藤, 1992)。そのため, 自然水域は非常に限定されるが, 農業用のため池や湧水を源にする小河川が僅かに存在する (荻部ほか, 2013)。伊豆大島における水生甲虫相は, 近年東京都による小笠原諸島・伊豆諸島を含む島嶼部のレッドデータブックで取り上げられているほか (東京都環境局自然環境部, 2014), 吉富 (2014) や北野 (2015) によって報告されている。

筆者らは, 2018 年 10 月 15 日から 17 日に, 伊豆大島内の河川 12 地点および池 1 地点で採集をし, これまで記録のなかった水生甲虫を採集したので報告する。なお, 標本はすべて筆者の一人である佐野が保管している。

ホソセスジゲンゴロウ *Copelatus weymarni* Balfour-Browne, 1946 (図 1A)

1♀, 大島町泉津, 15. X. 2018, 佐野採集; 3♂ 2♀, 大島町差木地, 16. X. 2018, 佐野・山田採集。

ヒメゲンゴロウ *Rhantus suturalis* (Macleay, 1825) (図 1B)

1♀, 大島町差木地, 16. X. 2018, 山田採集。

コガムシ *Hydrochara affinis* (Sharp, 1873) (図 1C)

1♂ 3♀, 大島町差木地, 16. X. 2018, 佐野・山田採集。

ヒメガムシ *Sternolophus rufipes* (Fabricius, 1792) (図 1D)

1 ♀, 大島町差木地, 16. X. 2018, 佐野採集.

キイロヒラタガムシ *Enochrus simulans* (Sharp, 1873)  
(図 1E)

1 ♂, 大島町差木地, 16. X. 2018, 佐野採集.

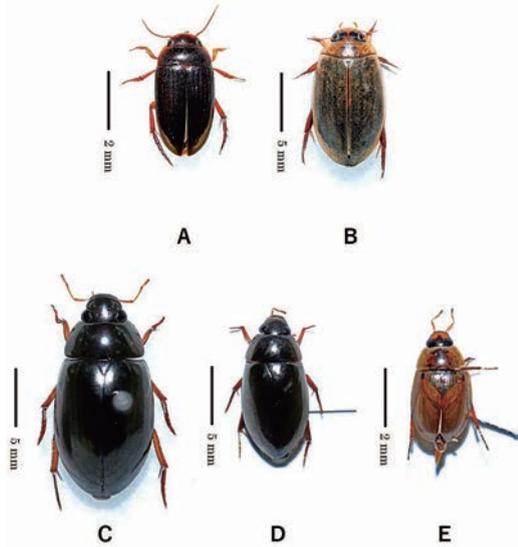


図 1. 伊豆大島で初記録された水生甲虫 5 種. A, ホソセスジゲンゴロウ; B, ヒメゲンゴロウ; C, コガムシ; D, ヒメガムシ; E, キイロヒラタガムシ.



図 2. 泉津の沢.



図 3. 差木地の池.

今回筆者らは、伊豆大島内の河川 12 地点、池 1 地点で調査をおこなったが、これらのうち地表に水辺があったのは河川 4 地点、池 1 地点であった。さらに河川 4 地点のうち 2 地点は 3 面コンクリートで水生甲虫は確認できなかった。水生甲虫が確認できたのは、泉津の河川 2 地点および差木地の池 1 地点であった。泉津の河川のうち 1 地点は、比較的安定した水辺があり、エゾヒメゲンゴロウ *Rhantus yessoensis* Sharp, 1891, マメゲンゴロウ *Agabus japonicus* Sharp, 1873, キベリヒラタガムシ *Enochrus japonicus* (Sharp, 1873) が確認された。なお、これらの種はすでに報告されている (北野, 2015)。泉津のもう 1 地点は、前者程安定した水辺ではなかったが、今回初記録であったホソセスジゲンゴロウが 1 個体確認された。本種は、岩盤で出来た沢の、小規模な水溜りに堆積した落ち葉の中から得られた (図 2)。ホソセスジゲンゴロウ、ヒメゲンゴロウ、コガムシ、ヒメガムシ、キイロヒラタガムシが確認された差木地の池は、面積が 10 m × 3 m 程で、樹林に囲まれており、池の半分は落ち葉が蓄積し、半分はガマ等の抽水植物が繁茂していた (図 3)。初記録された種の他にマメゲンゴロウおよびキベリヒラタガムシも多数確認された。また、トンボ類の幼虫や国内外来種であるアズマヒキガエルやモリアオガエルも確認されたことから安定した水辺となっている可能性がある。

末筆ながら、伊豆大島の水生甲虫の産地についてご教示いただいた東海大学教養学部人間環境学科の北野忠教授にはこの場を借りてお礼申し上げます。

引用文献

苅部治紀・須田真一・梅田 孝・林 秀信, 2013. 伊豆諸島のトンボ相. TOMBO, (55): 99-114.  
北野 忠, 2015. 伊豆大島で採集された水生甲虫 3 種. さやばねニューシリーズ, (20): 51-52.  
新藤静夫, 1992. 火山島における地下水の開発と保全—伊豆諸島の場合 (島嶼における水資源の開発と保全). 地下水学会誌, 34 (3): 137-152.  
東京都環境局自然環境部編, 2014. レッドデータブック東京 2014. ~東京都の保護上重要な生物種 (島しょ部) 解説版 ~. 634pp. 東京都環境局自然環境部, 東京.  
吉富博之, 2014. 伊豆諸島の水生甲虫類. さやばねニューシリーズ, (16): 26-31.

(佐野真吾 239-0813 横須賀市鴨居 4-1120  
観音崎自然博物館)  
(山田陽治 237-0076 横須賀市船越町 2 丁目 62  
サンクリース船越 201)